

# 「2025 ヤクルト世界大会」に約3500人が参加

## 「輝く未来と夢の実現～90年の歩みを力に、世界中の仲間とともに～」



成田 裕社長

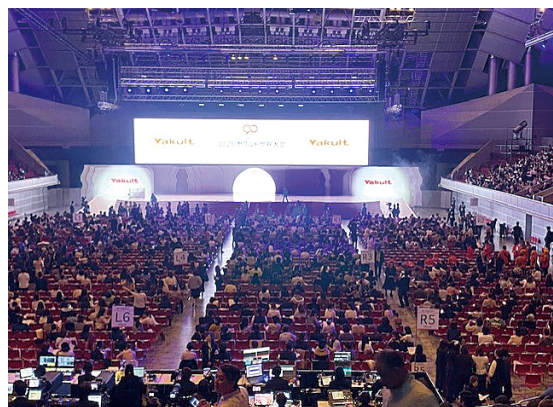
ヤクルト本社はこのほど、千葉・幕張メッセで「2025 ヤクルト世界大会」を開催。表彰者2943人を含む約3500人が参加した。

開会にあたり成田 裕社長は「今年、当社は創業90周年の節目を迎えた。1935年、代田 稔博士が同志とともに『予防医学』『健康長寿』『誰もが手に入れられる価格』という理念のもとに、創業の地、福岡でヤクルトを世に送り出して以来、その精神を受け継ぎ、世界中に健康の輪を広げてきた。

ヤクルトの『人々の健康を守る』という理念は時代や国境を越えて共感を得られるものであり、ヤクルト



世界大会会場入口



会場内

レディやヤクルトビューティーほか関係者の皆さんが心の通った信頼関係を築き、ヤクルトの理念を体現する代表として地域に根差した活動を続けてくれたことがヤクルトグループの発展につながっており、皆さん

の存在はヤクルトの成長を支えてきた礎だ。また先日、世界で最も愛され飲まれている乳酸菌飲料としてギネス世界記録の認定を受けた。実際には数年前から世界一の販売実績を作り上げていたが、公に認められたこととなる」と謝辞を述べた。

そのうえで「世界の人々の健康に貢献し続けるヘルスケアカンパニーへの進化」というビジョン達成に向け、25年から2030年を対象とした中期経営計画に基づき、創業100周年に向けた歩みを始めている。AIの進展など世界が大きく変化する中でも、ヤクルトが提供する価値は、これまでと変わること



フィナーレ



受賞者代表、千葉県ヤクルト販売西船橋センターの山本美香氏（左）

文や情報提供、キャッシュレス決済など、消費者への利便性・サービスの向上を図るとともに、ヤクルトレディ、ヤクルトビューティーのお届けがさらにスムーズになり、もっと楽しく仕事がで

はしない。『人々の健康を守る』という使命は、今こそその重要性を増している。ただし、使命を達成する手段やプロセスは時代や社会の変化とともに変えていかなければならない。社会の

変化に対応し、より柔軟に、より多様なニーズに応えるために、私たちは『ヘルスケアカンパニー』へと進化していく。例えば、すでに一部では導入されているスマートフォンでの注

きるようになる取り組みを進めていく。これは、ヤクルトがこれまで培ってきた知見と信頼を活かし、地域を超え、世代を超えて、世界中の人々の健康に貢献するという新たな挑戦となる。この挑戦を支えるのは皆さん一人ひとりの力であり、大会スローガンの副題『90年の歩みを力に、世界中の仲間とともに』のとおり、一緒に歩みを進めていこう」との決意を示した。

表彰式では、努力賞780名に小町直樹執行役員化粧品事業本部長から表彰状を、プレゼンターとして俳優の宮沢エマが記念品を贈呈し「ヤクルトの理念を商品を通してお届けしている姿に感謝」と述べた。優秀社員賞（国内171名、海外203名）には岸本明取締役常務執行役員食品事業本部長および島田淳一取締役常務執行役員国際事業本部長から表彰状を、プレゼンターの俳優 杏は記念品とともに「フランスでも、スーパードイツもヤクルトをみかける。変化の多い環



次回開催地は神戸に決定

境の中で健康を支える大きな助けとなっている」との言葉を贈った。優秀賞 620 名には、岸本常務から表彰状を、プレゼンターの俳優 山田孝之から記念品が贈られた。永年功労表彰（勤続 40 年、国内 120 名）には、星子秀章取締役専務執行役員管理本部長から表彰状を、プレゼンターとして俳優の内田有紀から記念品が贈られた。永年功労特別表彰（同 50 年、国内 22 名）には、星子専務から表彰状を、プレゼンターの内田は記念品を贈呈し、「かつこいい！ 50 年以上にわたりヤクルトを販売してくれたおかげで、女性が自分らしくいられる社会をつくって

くれた」と感謝を述べた。本社社長賞（国内 500 名）には、成田社長から表彰状を、プレゼンターとして俳優 松坂桃李から記念品とともに「次の 100 周年に向けて商品を届け続けてほしい」との言葉が贈られた。代田賞（国内 300 名、海外 212 名）には、成田社長から表彰状を、プレゼンターの俳優 大泉洋からは記念品とともに「コロナ禍でも毎日ヤクルトを届けてくれた。90 年の歩みはヤクルトレディ、ヤクルトビューティーがあつてこそ。これからも世界中で飲める乳酸菌飲料として広がり続けて欲しい」との感謝が述べられた。

また、ヤクルトのロングセラー栄養ドリンク「タフマン」の CM に 40 年以上携わっていることを評して、俳優の伊東四朗に感謝状と記念品が贈られた。さらに会場には東京ヤクルトスワローズの新監督と選手、つばみもお祝いに

けつけ会場を盛り上げた。受賞者代表として、千葉県ヤクルト販売西船橋センターの山本美香氏は「2011 年からヤクルトの仕事

を始めた。当初はなかなか売り上げが伸びず、悩む日々が続いた。そこで手作りの回覧板を作成したところ、今まで購入のなかった

方からも注文をいただけるようになり、その後、一般家庭エリアも担当するようになった。そこで出会った顧客からいただいた言葉か

ら、笑顔には人の心を支える力があることを身をもって体感した。次の 100 周年に向け、初心を忘れず、笑顔と健康を毎日お届けで

きるよう日々精進していく」と感謝を述べた。なお次回世界大会開催地は神戸に決定した。

## 白鶴酒造、神戸ワイン新酒を披露



【大阪】白鶴酒造は 10 月 24 日、神戸ワイン事業継承後初の自社醸造ワイン「新酒 神戸みのり 赤／白」の完成を記念し、披露と展望についての説明会をポートピアホテルで開催した。神戸ワインの既存得意先とメディア関係者約 70 名が参加した。

松永将義取締役執行役員経営企画室長海外事業部及び神戸ワイン事業部担当（写真）は、「昨年 12 月に神戸ワイン事業を継承し、初めてのブドウ収穫、ワイン醸造を経て、今日を迎えられたことに感謝している。継承に当たっては社内でもかなり議論があつたが、神戸で生まれ育った酒類企業として、神戸ワインのブランドを無くすことはできないという判断があり決断に至った。日々試行錯誤の毎日、多方面からのサポートがあり、やっと新酒の発

売にたどり着いたというのが実感。神戸ワインを世界に向けて発信し、神戸ビーフと同じように世界ブランドになるよう取り組んでいきたい」とあいさつした。

また、嘉納健二社長は業界紙取材に「これまでに培われてきた技術やブランドをさらに発展させ、高めていく。この事業を通じて地域経済の活性化に貢献できれば」とコメントした。

同日に発売した、新酒 2 品とワイン用ブドウを使ったブドウジュース 2 品を披露した。新酒の醸造はこれまでの神戸ワインを踏襲した。赤は、メルロ 100%。白は、シャルドネ、リース



ラベルデザインは、新酒はブドウ畑の風景線画や毛筆文字の「神戸」、日本らしさを表現するカタカナの

今後の展開では、様々な品種をテスト栽培しており、神戸の環境に適した品種を選定していく。圃場のうち、西区は瀬戸内海に面し、ミネラル成分を多く含む。北区は六甲山に臨む寒暖差の大きい優良な酒米の産地